

授業科目名	文化人類学	担当教員	玉井隆
必修	開講年次：1年後期	単位：1単位	授業形態：講義 15時間

#### 【授業概要】

人生の出来事を理解し、そこに関わるためには、社会・文化の視点と、そこに生きる個々人の視点の両方から見つめることが不可欠である。そして、私たち自身にとって当たり前になっている、私たちの社会・文化、私たち自身を見つめ直すこともまた必要である。本講義では、人間の一生において遭遇する出来事を、様々な視点から見つめ直し、そうした出来事の一つとして、医療や看護という専門職者の世界の一員になることがどのようなことかを概観する。そこから、人間の多様な生のあり様をより広い視点から創造的に捉える力を養うと同時に、その同じ力を、自分自身を見つめ直す力としても役立てることを目指す。

#### 【授業目的・目標】

1. 文化の多様性と普遍性の認識を高める。
2. 人間が自文化中心主義に陥りやすい理由について考察し、異文化に対する感受性を高める姿勢を身につける。
3. 文化的要因が人々の価値観、生活様式、健康に関する理解や態度に影響することへの認識を高める。
4. 異文化を理解するためのアプローチと方法を理解する。
5. グローバルな社会の中で国際人として共存するための態度やマナーを身につける。

#### 【履修条件】

特になし

#### 【授業計画】

- [01] イントロダクション：文化人類学を学ぶことの意義
- [02] 文化人類学の歴史：文化的他者について描くこと
- [03] 文化人類学の方法：エスノグラフィの有効性と課題
- [04] 医療の多元性：世界各地の変わりゆく医療
- [05] 病いの語り：病者の語りの意味
- [06] 構造的暴力：なぜ治るはずの病気で苦しまなければならないのか
- [07] つながりと集まり：病者にとっての人やものとのつながり
- [08] グローバル・ヘルスと人類学

#### 【教科書】

指定しない

#### 【参考書】

1. Janzen, John 1978 The Quest for Therapy: Medical Pluralism in Lower Zaire. Berkley: University of California Press.
  2. クラインマン、アーサー (1996) 病いの語り：慢性の病いをめぐる臨床人類学 誠信書房.
  3. ファーマー、ポール (2012) 権力の病理：誰が行使し誰が苦しむのか みすず書房.
- クラインマン、アーサー (1996) 病いの語り：慢性の病いをめぐる臨床人類学 誠信書房.  
 ファーマー、ポール (2012) 権力の病理：誰が行使し誰が苦しむのか みすず書房.  
 その他必要に応じて案内したプリント等を配布する。

#### 【評価方法・評価基準】

1. 最終レポート：70%
2. コメントペーパー：30%

#### 【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に課題文献・論文が提示された場合、それを読み込み、また論点を整理しておく。

事後学習：上記参考文献および授業中に紹介する文献や論文を読むことで、本講義の理解が格段に深まる。

#### 【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素 I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、VII. 国際的視野の育成と地域貢献能力と関連する。

#### 【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートについては提出された次の授業の中で可能な限り紹介しコメントする。

#### 【備考】

本講義は医療（特に看護）分野において仕事を得て現場で働くことを望む方々が、現場に出たらいつか直面するであろう、医療の現場における様々なヒト（病者、患者、家族、友人、他の医療従事者）やモノ（薬剤、医療機材）との関わりに関する悩みや疑問に対して、何らかのヒントを得られることを目指して設計しています。本授業を通して（国内外を問わず）医療従事者としてあることの強さと脆さについて徹底的に考えてみてください。